

マーデルング氏杵穿傷例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37834

實 驗

本例ハ昨年十二月十二日金澤醫學會ニ於テ講演シタル者ナリ。

マーデルング氏杵穿傷例

ドクトル 飯 森 益 太 郎

人体ガ高處ヨリ墜落スル際、直立セル竹若クハ木桿ヲ以テ會陰部ヲ傷クルトキハ腹部ニ達スル特異ノ穿通創ヲ被ルコトアリ、マーデルング氏 Madelung ハ之レヲ杵穿傷 Pfählungsverletzung (Ueber eine typische Form von Pfählungsverletzung des Unterleibes. Deutsche med. Wochenschr. 1899, Nr. 1.)ト名ケタリ、其創傷ノ徑路ハ常ニ一定シ頗ル興味アルモノナリ、即チ會陰ニ於テ先ヅ陰囊ヲ被リ、精系ト耻骨前面トノ間ヲ過ギ、次デ腹壁ノ皮下ヲ潜行シ肋骨弓下ニ達ス、若シ外力尙ホ強大ナルトキハ終ニ腹筋ヲ穿チテ腹腔内ニ突入シ、内臓ヲ傷ケ重篤ナル症狀ヲ呈スルモノナリ、余ハ近來之レニ適應セシ一症例ヲ見タルヲ以テ左ニ報告ス。

患 者 清 水 某 男 (九歲) 石川郡押野村字八日市出、農家族。

大正六年七月七日午後三時頃、樹木ニ登リ遊戯中、一間半計リノ高サヨリ直立セル竹桿ノ上ニ墜テ股間ニ負傷ス、出血甚シク且ツ右辜丸脫出セシヲ以テ、某醫院ニ赴キ辜丸ヲ還納シ創口ヲ縫合シ一兩日加療セシモ局所ハ益々腫起シ加フルニ發熱、腹部ニ疼痛ヲ訴ヘシヲ以テ來院セリ。

局部ヲ檢スルニ左陰囊ノ縫合セル處ハ一部壞疽ニ陥リ、已ニ化膿セシヲ以テ縫合糸ヲ去リ、内腔ヲ診スルニ上方ハ

右精系ノ後ヨリ深ク耻骨上ニ達ス、且ツ左腹壁過敏ニシテ少シモ手ヲ觸ルル能ハズ、同日ハ單ニ沃仿「ガーゼ」ヲ創口ニ挿入シ、腹部ハ褻法ヲ施セリ。

其後、陰囊ノ創ハ可良ナリシモ左腹壁ノ炎症増悪シ、陰阜ヨリ斜ニ左上方ニ走リ左肋骨弓前腋窩線ニ對スル部ニ涉リ、堤防狀ニ腫脹シ其中間僅カニ波動ヲ觸ル、發熱(三十八度—三十九度)疼痛甚シ依テ同月十一日麻醉ニ依リ切開セシニ上記ニ適應セル溝狀ノ化膿部アリ其長サ二十五仙迷、内腔ニ斷々タル竹片五個(全長十三・五仙迷)アリ終端ハ左季肋下三仙迷ニ達スルモ腹筋ヲ穿通スルニ至ラズ(?)、術後經過可良、在院十五日ニシテ退院セリ。

以上ハ高處ヨリ墜落セシ時竹桿ヲ以テ陰囊ヲ破リ、腹壁ノ皮下ヨリ左季肋ニ達セシモノナレドモ、幸ニ竹桿ハ半バ腐朽セシヲ以テ數片ニ折レ腹腔内ニ穿進セザリシモノニシテ所謂「マーデルング氏」杖穿傷中ノ僥倖ナル症例ナリトス。

纂 說

耳鼻咽喉科小史 (其四)

越 村 甚 次 郎 (大正元)

百般科學ノ淵源ヲ埃及ヨリ輸入セラレタル希臘ニ於テハ、一代ノ巨擘 Hippocrates 紀元前三百七十七年氏現ハレテ、宇宙森羅萬象ニ索強附會セル當時ノ迷信的醫學ヲ脱却シ、精密ナル思索ト、犀利ナル觀察トニヨリ得タル幾多ノ經驗的智識ヲ骰子トシテ編纂セル Corpus Hippocraticum ト稱スル五十三篇ノ空前ノ鴻著ヲ後代ニ殘セリ、此ノ全集中ニ鼻科ニ關スル記載甚ダ多數ニシテ且ツ詳細ヲ極メリ、就中鼻外傷及ビ中隔損傷ニツキテハ、其治療法トシテ應急止